

韓国農林畜産食品部 2020. 10. 14 10:02:18 プレスリリース

ASF 防疫推進状況（2020 年 10 月 14 日）

<https://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGbWFmcmEIMkY20CUyRjMyNDk0MyUyRmFydGNsVmll dy5kbyUzRnJnc0VuZGRlU3RyJTNEJTI2YmJzT3Blbl dyZFNlcSUzRCUyNnBhc3N3b3JkJTNEJTI2cGFnZSUzRDEIMjZyZ3NGZ25kZVN0ciUzRCUyNnJvdzUzRDEwJTI2YmJzQ2xTZXEIM0QIMjZzcmNoQ29sdW1uJTNEJTI2aXNWaWV3TWluZSUzRGZhbHNIJTI2c3JjaFdyZCUzRCUyNg%3D%3D>

□ASF 中央事故収拾本部は、10 月 13 日の京畿・江原地域養豚農家 1245 戸の電話予察結果、ASF 疑い等の異常は発見されなかったと明らかにし、

○今後、電話予察における“養豚農場で守るべき予防規則の広報（毎日 3 つずつ）”も並行することにした。

<参考：10 月 13 日電話予察時の広報事項>

- ①農場出入口・周辺における生石灰ベルト構築、畜舎出入りの際の手の消毒・長靴履き替え
- ②外国人労働者の雇用申告と農場労働者の外出自制
- ③農場関係者の登山自制（野生イノシシ接触の危険）

□本部は京畿・江原北部と隣接 14 市郡の養豚農場 395 戸*の 10 月 16 日から 10 月 26 日までの 2 週間、「養豚農場予察強化期間」を運営することとした。

*ASF 発生直後 1 次精密検査（血液検査）を実施し、全て陰性と確認（10.10~10.12）

○当該農場の臨床検査（1 週毎）、精密検査（2 週間毎）を実施する。

○特に、野生のイノシシ防疫帯（陽性個体発見地点から半径 10km）内の農場や発生農場の疫学関係農場 182 戸については、毎週精密検査を実施する計画である。

□本部は 10 月 13 日、消毒車 200 台と人材 80 人を導入し、国境地域の野生イノシシ陽性検出地点と周辺道路、農場進入路を集中消毒し、

○消毒車 905 台（自治体・農協消毒車、広域防除器、軍提督車）を導入し、全国の養豚農場 6066 戸の消毒を実施した。

○また、華川・抱川・鉄原・楊口・麟蹄等は養豚農場周辺・進入路等は毎日 4~2 回の集中消毒している。

○華川郡の隣接市郡（抱川・鉄原・楊口・春川）の主な接続道路に消毒施設を追加設置*し、畜産車両の消毒を強化した。

*抱川・鉄原は従来から運用中であり、楊口（10/11）・春川（10/11）に追加設置

○本部はハンドン協会の協力により国境地域 395 養豚農場に農場内外を徹底消毒するよう指導し、消毒状況を確認（全農家の写真受信）した。

□発生農場（華川 2 戸）及び予防的殺処分対象農場（華川 1 戸、抱川 2 戸）の豚 4077 頭の殺処分、埋却、レンダリング処理が完了した。

機械翻訳等に基づく仮訳

* 3戸の豚はFRP（繊維強化プラスチック）密閉型貯蔵槽で処理、2戸の豚はレンダリング（死体を160°C、1時間以上の高温高圧処理）

□本部は10月13日、野生のイノシシにおけるASF発生地域である計11市郡に調査人員495人（環境部調査チーム336人、軍人員159人）を派遣してイノシシの死体を調査し、

○10月13日まで華川に箱罠10個、くくり罠50個をイノシシ移動通路等に追加で設置して捕獲を強化*し、民家のある地域へのイノシシの移動を遮断している。

*華川 箱罠121→131、くくり罠15→65

○また、広域フェンス最南端路線から約10km以上離れているASF拡散リスクの低い北部*を、くくり罠中心の制限的銃器捕獲**地域に切り替えている。

*国境地域（坡州～高城の7市郡）18里→198里

**制限銃取得：猟犬を使わない銃器捕獲。野生イノシシの長距離移動の可能性を最小限に抑える

□キム・ヒョンス本部長は10月13日、ASF病防疫状況会議（10月8日から毎日開催）で

○「ASF発生の可能性が少しでも高いとされる市郡及び地域に対しては、消毒資源を最大限に確保し、より集中して消毒しなければならない」と述べた